

幸田町シニア・シルバー世代支援のための アンケート調査

(個人編)

2023年10月

幸田町生涯現役推進協議会

<目 次>

はじめに	3
調査要領	4
調査結果	6
1 個人プロフィール（年齢、性別）	6
2 雇用形態	9
3 定年退職時	11
4 定年（60歳）退職後	13
4-① 定年後の活動について	13
4-② どんな活動をしたいか	16
4-③ 仕事をしたい理由	20
4-④ いつ頃まで活動したいか	23
4-⑤ 働く上での不安	27
4-⑥ 定年後のための準備	34
5 サポートセンターのホームページへの関心	35
6 サポートセンターの事業への関心	38
7 自由意見	41
8 アンケートから想定される課題と対策案	42
9 まとめ	43

はじめに

現在、幸田町では厚生労働省が目指す健康寿命の延伸(*1)を目的に、55歳以上のシニア・シルバー世代の方が、生涯に渡りご本人の意欲に応じて就労、起業、社会活動参加などを通じて健康で生き生きとした生活を送ることで、健康維持や介護予防につなげる「ウェルビーイングのまちづくり」の実現に資する事業（シニア・シルバー世代サポート事業）を進めています。ここで言う「ウェルビーイング」とは、心身と社会的な健康を意味し、満足した日々の生活を送ることができる状態・幸福な状態・充実した状態などの多面的な幸せを意味します。

本アンケート調査は、町内在住のシニア・シルバー世代の主に定年後の社会との関わり方についての意識や要望を把握し、今後の支援事業の企画、精度や効果を高めるための根拠となる資料にするのが目的です。

幸田町は製造業をはじめとする第二次産業が集積していることから、人口構成にも特徴があり(P12、*4)、それらを生かすことで、超高齢化社会にあって他の市町のモデルとなるような事業展開が可能なのではないかと感じます。第3回目となる今回のアンケート調査では、高年齢者予備軍である50～54歳の方も調査を行い、比較対象としました。

調査結果からは、幸田町ならではの、高年齢者ならではの課題が浮かび上がっており、これらに応えられる事業を展開してまいります

(*1)「2040年までに健康寿命を男女ともに3年以上延伸し、75歳以上とすることを目指す。（2021年12月20日、第16回健康日本21（第二次）推進専門委員会）」

調 査 要 領

調査目的

幸田町内在住のシニア・シルバー世代(55歳から70歳)の意識と、新型コロナウイルス感染症拡大後、高年齢者雇用安定法改正施行(*2)の影響を把握し、今後実施すべき事業の参考にすること

(*2) 2021年4月1日施行。65歳までの雇用確保(義務)に70歳までの就業機会の確保(努力義務)が加わった。65歳以上の社員の雇用先の拡大なども盛り込まれた

・ 第 1 回調査

- 1)調査時期 2019年12月
- 2)対象 幸田町内在住の55歳から70歳の男女個人2000人
- 3)抽出方法 無作為抽出
- 4)調査方法 郵送によるアンケート
- 5)調査者 幸田町(調査委託先:株式会社タスクール Plus)
- 6)回収数 950(回答率 47.5%、うち記名回答342(36.0%))

・ 第 2 回調査

- 1)調査時期 2022年7月
- 2)対象 幸田町内在住の55歳から70歳の男女個人2000人
- 3)抽出方法 無作為抽出
- 4)調査方法 郵送によるアンケート
- 5)調査者 幸田町シニア・シルバー世代サポート推進協議会
(調査委託先:株式会社タスクール Plus)
- 6)回収数 421(回答率21.1%、うち記名回答197(46.8%))

・ 第 3 回調査

<調査 3-1:55～70 歳対象>

- 1)調査時期 2023 年 8 月
- 2)対象 幸田町内在住の55歳から70歳の男女個人2000人
- 3)抽出方法 無作為抽出
- 4)調査方法 郵送によるアンケート
- 5)調査者 幸田町シニア・シルバー世代サポート推進協議会
(調査委託先:株式会社タスクール Plus)
- 6)回収数 356(回答率 17.8%、うち記名回答165(46.3%))

＜調査 3-2: 50～54 歳対象＞

- 1)調査時期 2023年 8 月
- 2)対象 幸田町内在住の50 歳から 54 歳の男女個人 500 人
- 3)抽出方法 無作為抽出
- 4)調査方法 郵送によるアンケート
- 5)調査者 幸田町シニア・シルバー世代サポート推進協議会
(調査委託先:株式会社タスクール Plus)
- 6)回収数 66 (回答率 13.2%、うち記名回答18 (27.3%))

●回収数に差があるのは、無作為抽出のため、2019年、2022年、2023年と同じ方に送られた可能性があり、アンケート内容に大きな差異がないことから、「回答済み」と感じたなどの原因が考えられる

●55～70歳の2022年から記名回答者の比率が上昇(36.0%→46.8%、2023年も 46.7%)しており、精度が高くなっていると思われる

集 計 結 果

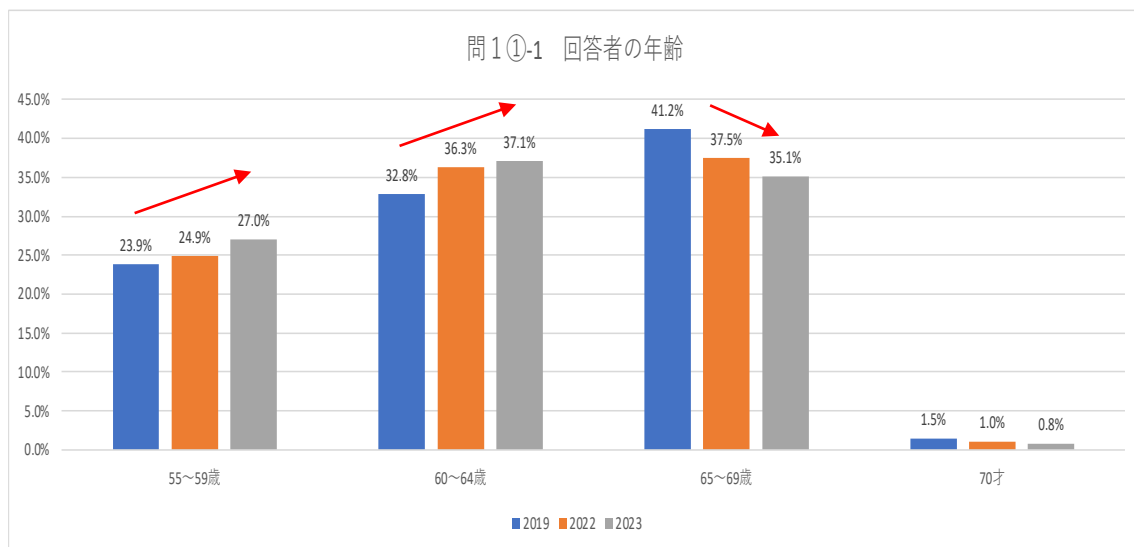
1 個人プロフィール（年齢・性別）

問 1 あなた自身についてお伺いします。

① 年齢(当てはまるもの1つ)

1 55～59 歳 2 60～64 歳 3 65～69 歳 4 70 歳以上

	2019		2022		2023	
55～59 才	227	23.9%	105	24.9%	96	27.0%
60～64 才	312	32.8%	153	36.3%	132	37.1%
65～69 才	391	41.2%	158	37.5%	125	35.1%
70 才	14	1.5%	4	1.0%	3	0.8%
未記載等無効回答	6	0.6%	1	0.2%	0	
合計	950		421		356	

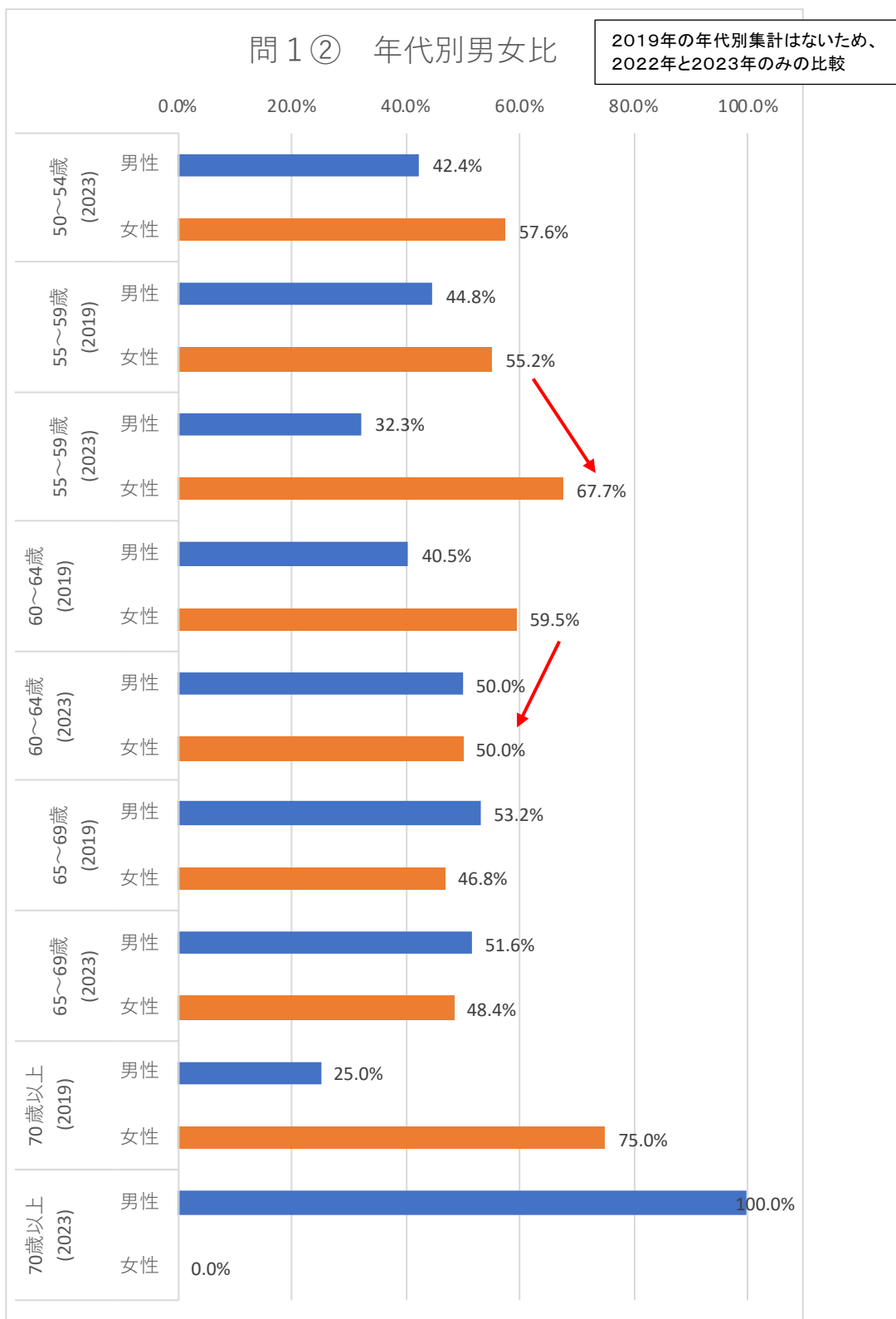


● 高齢者雇用安定法改正の影響なのか、55～64歳の関心が高くなっているようだ

② 性別(当てはまるもの1つ)

1 男性 2 女性 3 答えたくない

	2019		2022		2023(55-70 歳)		2023(50-54 歳)	
男性	471	49.7%	194	46.2%	164	46.0%	28	42.4%
女性	476	50.3%	226	53.8%	189	53.0%	38	57.6%
未記載等無効解答	3	0.2%	1	0.2%	3	0.8%	0	0.0%
合計	950		421		356		66	



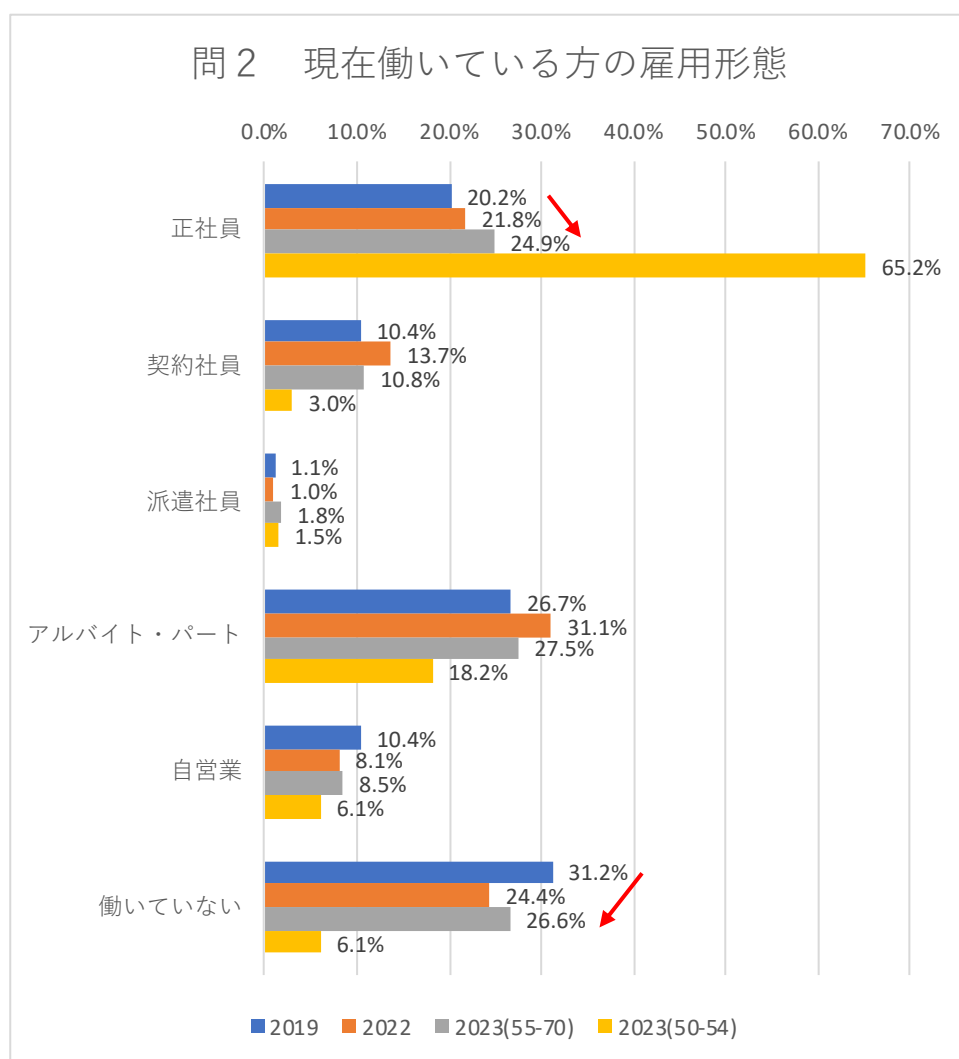
- 『定年』前後の生活や働き方には女性の方が関心が高いのか、毎回女性の方が回答者総数が多く、年齢別では55～64歳の女性回答者が多い
- 総じて女性の回答率が高いが、65歳を境に男性の関心が高くなるのは65歳定年が今後の人生を考えるきっかけになったのではないかと推測される

2 雇用形態

問2 現在、働いている方は雇用形態についてお伺いします。

- 1 正社員 2 契約社員 3 派遣社員
4 アルバイト・パート 5 自営業 6 働いていない

	2019		2022		2023(55-70 歳)		2023(50-54 歳)	
正社員	190	20.2%	89	21.8%	85	24.9%	43	65.2%
契約社員	98	10.4%	56	13.7%	37	10.8%	2	3.0%
派遣社員	10	1.1%	4	1.0%	6	1.8%	1	1.5%
アルバイト・パート	251	26.7%	127	31.1%	94	27.5%	12	18.2%
自営業	98	10.4%	33	8.1%	29	8.5%	4	6.1%
働いていない	293	31.2%	100	24.4%	91	26.6%	4	6.1%
合計	940		409		342		66	



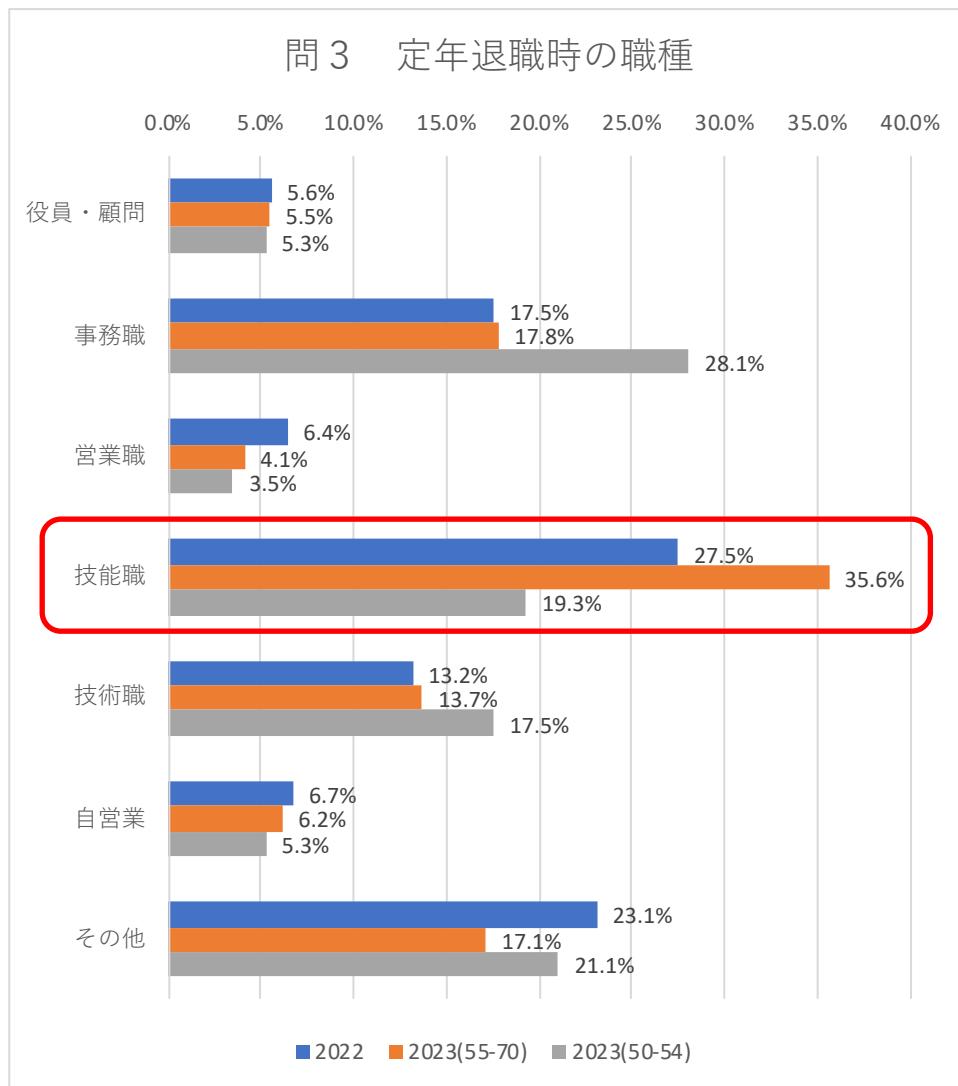
- 「正社員」が年々増加しているのは、65歳定年が定着してきた表れではないかと思われる
- 「働いていない」人が減っているのは、全国の動き(*3)と連動している

(*3) 「65歳以上の高齢就業者数は、19年連続で増加し、912万人と過去最多。就業率は25.2%で前年に比べ0.1ポイント上昇、65～69歳は50.8%、70～74歳は33.5%と、いずれも過去最高」（2023年9月17日、総務省統計局）

3 定年退職時の職種（2022 年、2023 年のみ）

問3 定年退職時の職種(当てはまるもの1つ)

- 1 企業・団体等の役員・顧問 2 企業・団体等の事務職
3 企業・団体等の営業職 4 企業・団体等の技能職
5 企業・団体等の技術職 6 自営業
7 その他()



●技能職の多さが、幸田町の第二次産業就業者比率の高さ(*4)を反映している

(*4)産業別就業者割合(総務省2020年国勢調査から)

		全国	幸田町
第一次産業	農業、林業、水産業など	3.2%	3.2%
第二次産業	製造業、建築業など	23.4%	45.4%
第三次産業	商業、金融業、運輸業など	73.4%	49.7%

その他

2022年		2023年 55～70歳		2023年 50～54歳	
公務員	8	公務員	4	教員	4
パート	8	生産現場	3	介護職	2
教員	5	教員	3	販売職	1
介護職	3	販売職	1	公務員	1
販売職	3	梱包作業員	1	接客業	1
保育士	3	カスタマーサービス	1	ピッキング作業員	1
看護師	2	トラックドライバー	1	花木のセット品作り	1
主婦	2	保育士	1		
鍼灸師	1	薬剤師	1		
トラックドライバー	1				
送迎ドライバー	1				
エアロビクスインストラクター	1				

4-① 定年(60歳)退職後(定年後の活動について)

問 4 定年退職後について、お伺いします。

① 定年後の活動(仕事、起業、ボランティアなど)について

- 1 定年後は活動したい 2 定年後は活動したくない
3 分からない 4 その他()

	2019		2022		2023(55-70 歳)		2023(50-54 歳)	
活動したい	458	59.6%	238	61.2%	126(*5)	48.5%	38(*5)	60.3%
活動したいが何もしていない	設問なし				42	16.2%	設問なし	
活動したくない	161	21.0%	37	9.5%	設問なし		1	1.6%
わからない	設問なし		97	24.9%			15	23.8%
決めていない	設問なし				76	29.2%	9	14.3%
その他	149	19.4%	17	4.4%	16	6.2%	0	0.0%
合計	768		389		260		63	

(*5)内訳

	2023年 55～70歳	2023年 50～54歳
就業	93	29
起業	7	3
ボランティア	7	4
その他	19	2

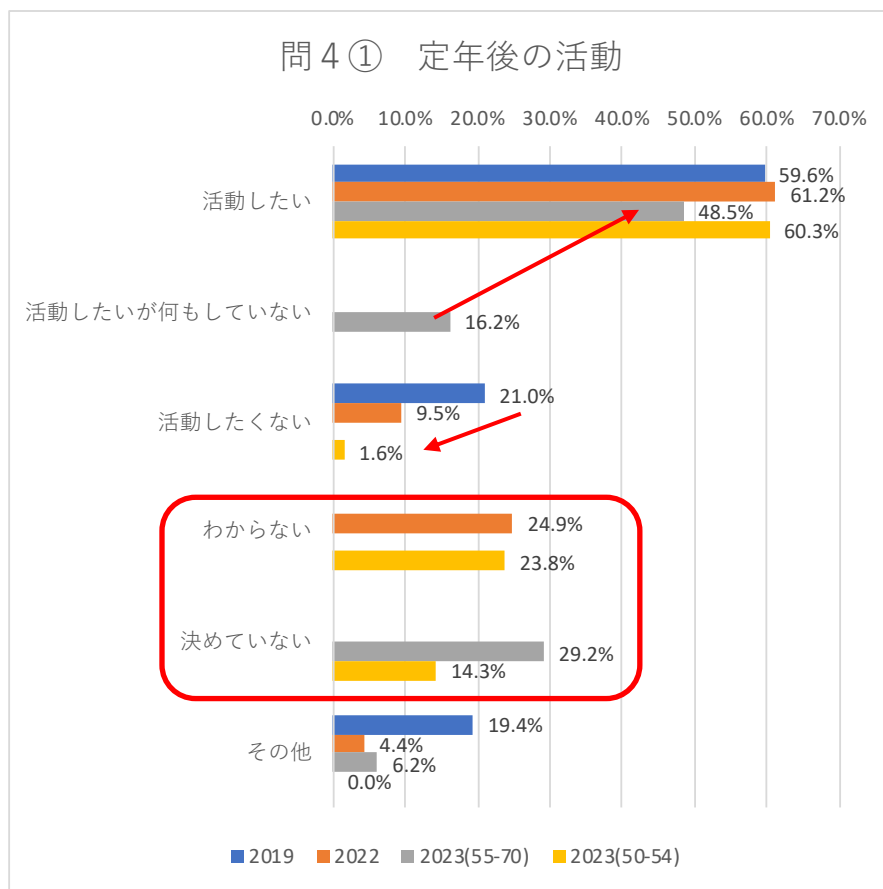
その他(回答なしを含む)

農業 4

地域の仕事 3

1

親の介護 1



その他 2023(50-54 歳) 芸事指導
今の仕事を続ける

2023(55-70 歳) 定年はない(3人)
母親の介護
今のアルバイト程度で良い
活動する予定がある
ヘルニアが見つかり、仕事を辞めたばかり
働く必要がない
不動産賃貸
家事手伝い
サラリーマンで退職された方はある程度役職者の人が多く再就職は難しいと思います。退職後ゆっくりしてから考える。ボランティアかな
自営なので身体が動く限り
趣味を生かした活動

2022 介護のため働けない(2人)
体調不良で働けない、家庭菜園など

2019 介護のため現在は難しい
孫の世話
通院中
体に不自由なところがある

●2019年の設問になかった「分からない」を2022年には追加している。比較のために2022年のデータは「分からない」と「その他」を合算して「その他」としている。2023年はそれを「特に決めていない」としている。2023年の集計では「決めていない」が29.2%と3割近い人がセカンドキャリアのイメージを決めかねているようだ

●2023年の「活動したい」と「活動したいが何もしていない」を合算すると64.7%と、調査ごとに増加しており、活動意欲の高さが伺える。ただし「何もしていない」人が16.2%もあるため、セカンドキャリア教育を実施するなど、支援課題と言えよう

●健康寿命の理想は85歳という調査結果(*6)もあり、サードキャリアまで想定することが必要かもしれない

*セカンドキャリア＝「第二の人生における職業」。中高年の早期退職や定年後のキャリア、出産・育児後の女性の社会復帰を含む。

*サードキャリア＝人生100年時代となり、「第三の人生」をイメージした働き方が必要になる。働き方とは言え、生き方に近く、労働・収入が重点となるセカンドキャリアに対し、生きがいや健康維持が重点となる

(*6)男性85.55歳、女性86.99歳（2022年、タニタ）

4-② 定年(60歳)退職後（どんな（仕事）をしたいか）

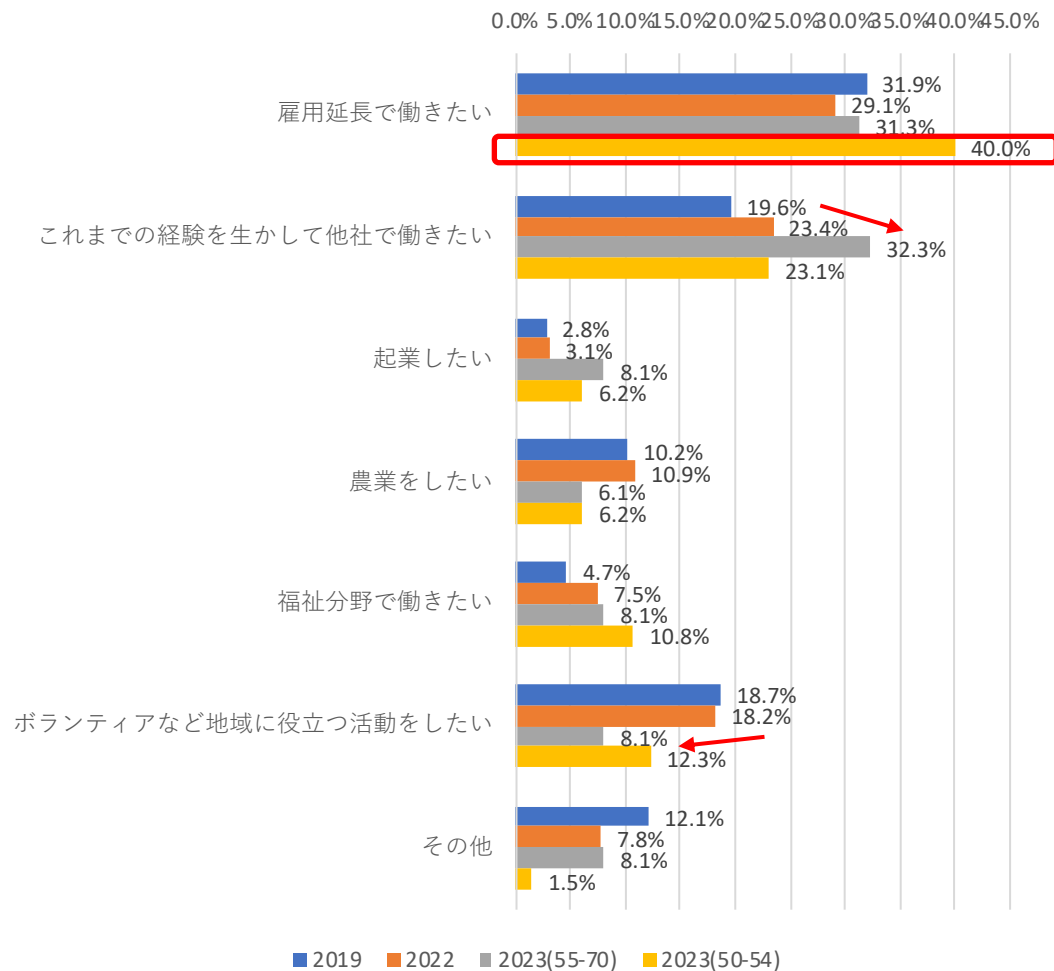
②「定年後は活動したい」と答えた方にお伺いします。

どんなこと(仕事)をやってみたいですか。(複数回答可)

- 1 雇用延長で働きたい
- 2 これまでの経験を生かして他社で働きたい
- 3 起業したい(分野:)
- 4 農業をしたい((1)米・野菜 (2)筆柿などの町特産品 (3)森林サービス業 (4)その他:)
- 5 福祉分野で働きたい((1)介護 (2)医療 (3)障がい者支援 (4)その他:)
- 6 ボランティア((1)里山保全 (2)子育て支援 (3)その他:)など
地域に役立つ活動をしたい
- 7 その他()

	2019		2022		2023(55-70歳)		2023(50-54歳)	
雇用延長で働きたい	243	31.9%	112	29.1%	31	31.3%	26	40.0%
これまでの経験を生かして他社で働きたい	149	19.6%	90	23.4%	32	32.3%	15	23.1%
起業したい	21	2.8%	12	3.1%	8	8.1%	4	6.2%
農業をしたい	78	10.2%	42	10.9%	6	6.1%	4	6.2%
(1)米・野菜の生産					2		2	
(2)筆柿など町の特産品生産					1		1	
(3)森林サービス					1		1	
(4)その他					2		0	
福祉分野で働きたい	36	4.7%	29	7.5%	8	8.1%	7	10.8%
(1)介護					1		2	
(2)医療					1		1	
(3)障がい者支援					5		3	
(4)その他					1		1	
ボランティアなど地域に役立つ活動をしたい	142	18.7%	70	18.2%	8	8.1%	8	12.3%
(1)里山保全					2		1	
(2)子育て支援					5		5	
(3)その他					1		2	
その他	92	12.1%	30	7.8%	6	8.1%	1	1.5%
計	761		385		99		65	

問4② 定年後、何（仕事）をしたいか



内訳	2022年	2023年(55-70歳)	2023年(50-54歳)
起業したい		特技を活かしたい	福祉
		本の執筆、写真家、新商品開発	金融
		接客、品出し	企業コンサルタントみたいな技術アドバイザー
		建設業（土木等）	システムエンジニア
		健康増進の分野	
		不動産業	
農業をしたい	米・野菜（9人）	米・野菜（2人）	
	筆柿などの町特産品	筆柿などの町特産品	
	その他（4人）	森林サービス	
		花、果樹、週3日程度、草取り	
福祉分野で働きたい	介護（6人）	介護（2人）	
	障がい者支援（4人）	障がい者支援（3人）	
	医療	医療	
	その他（保育）		

その他

2023

これまでと違う分野で働きたいがまだ具体化できていない
何をしたいとは、なにも考えてません
空き家バンクのマッチング、再利用、移住者支援のサポート
芸能指導

2022

少しの期間 自分の事や家の事をやり、また考える
生け花の指導をしたい
独立開業したい
未定
家電修理とか機械修理とか
英語力を活かして、日英翻訳の仕事をしたい
自分の時間を第一に高度な仕事
研究を続けたい。
海外販売に25年以上かかわり、その経験が生かせる仕事、活動
以前からやりたかった仕事をしたい
定年はありません。
一人暮らしの老人訪問等
家政婦、家事代行、内職
経験のない分野でムリなくできること
趣味の講座を開く。雇用延長中65才迄
まだ分からない
自身の体調を考慮してもらえらなら
やりたくても役に立つことが出来ない
サービス業

2019

雑貨販売
行政・法律関係
オンラインショップ
洋服の直し
野菜づくりを行っている
米
筆柿
バナナ
介護
医療
今していることを続けていく
シルバー人材で活動中

運動や体作り

1～2 年はゆっくりしたい

移住して田舎暮らし

●50～54歳(2023年のみ)の層は、安定志向が強いのか、雇用延長を希望する比率が高い

●55～70歳では「これまでの経験を生かして他社で働きたい」「起業したい」が増加している。第二次産業出身者が多いためと推察されるだけでなく「より高度な仕事をして社会の役に立ちたい」という気持ちもあるのではないだろうか

●「農業」や「ボランティア」へのニーズが減少しているのは少々気掛かりであり、今後の支援課題と捉えるべきだろう

4-③ 定年(60歳)退職後(仕事をしたい理由)

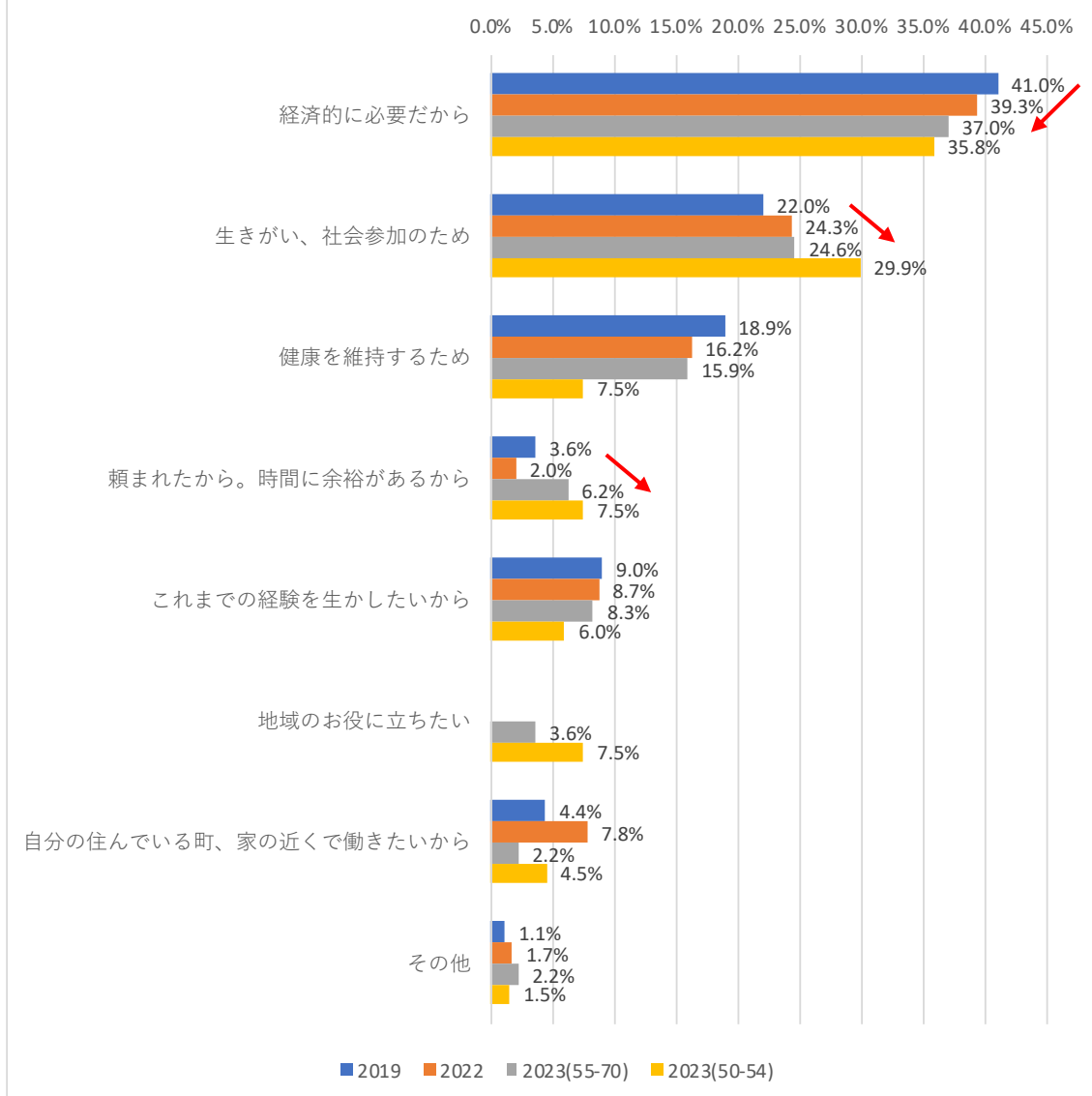
② 仕事などをやってみたい理由について、お答え願います(1番当てはまる内容を1つ)。

③

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1 経済的に必要だから | 2 生きがい、社会参加のため |
| 3 健康を維持するため | 4 頼まれたから、時間に余裕があるから |
| 5 これまでの経験を活かしたいから | 6 地域のお役に立ちたい |
| 7 自分の住んでいる町、家の近くで働きたいから | |
| 8 その他() | |

	2019		2022		2023(55-70歳)		2023(50-54歳)	
経済的に必要だから	250	41.0%	136	39.3%	102	37.0%	24	35.8%
生きがい、社会参加のため	134	22.0%	84	24.3%	68	24.6%	20	29.9%
健康を維持するため	115	18.9%	56	16.2%	44	15.9%	5	7.5%
頼まれたから。時間に余裕があるから	22	3.6%	7	2.0%	17	6.2%	5	7.5%
これまでの経験を活かしたいから	55	9.0%	30	8.7%	23	8.3%	4	6.0%
地域のお役に立ちたい					10	3.6%	5	7.5%
自分の住んでいる町、家の近くで働きたいから	27	4.4%	27	7.8%	6	2.2%	3	4.5%
その他	7	1.1%	6	1.7%	6	2.2%	1	1.5%
合計	610		346		276		67	

問4③ 仕事などをやってみたい理由



その他 2023 資格を生かしたい(保育士)

2022 仕事をしているのが健康上最善
生活に余裕ができる

2019 ボランティアでバザー用の小物を作っている
少しでも役に立ちたい
体力的にきつい
高齢の親との同居で外出が不安

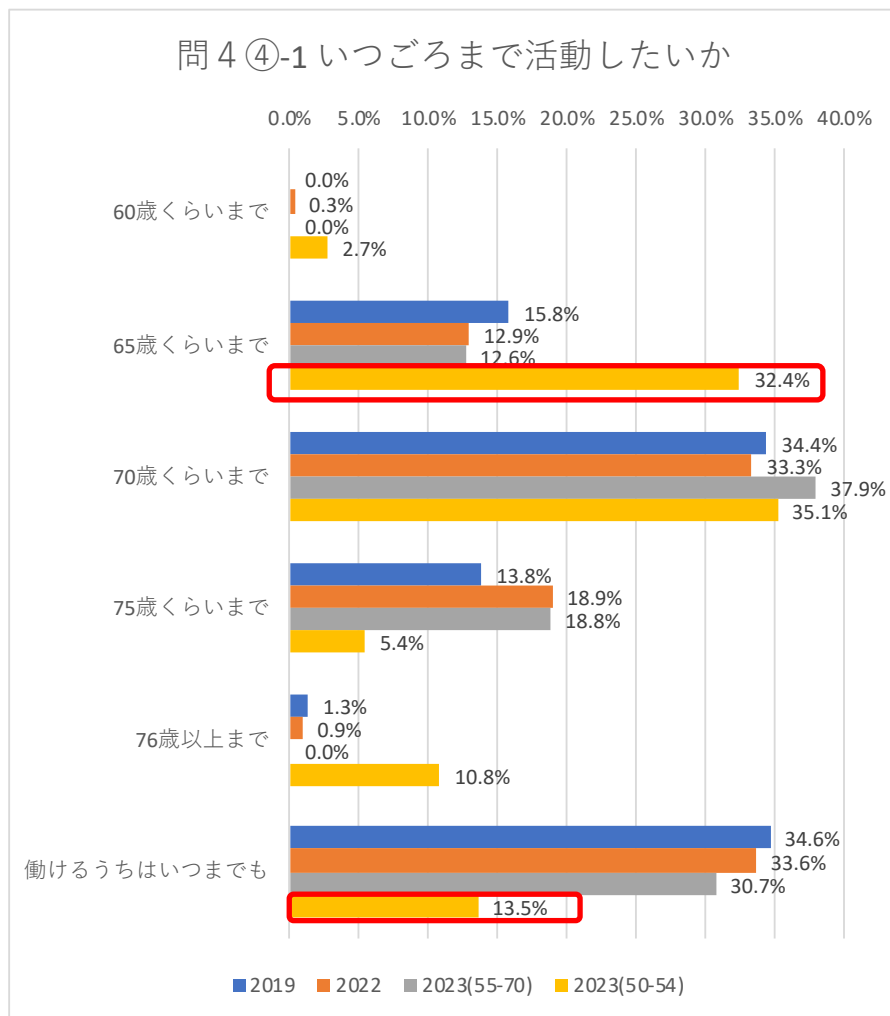
- 円安とそれに伴う物価上昇、この地域に多い自動車産業における構造変化（EV化による業績・雇用不安）、戦争や災害リスクなどの社会情勢、介護・年金・貯蓄不足による経済不安などから「経済的に必要」が最も多いのは変わらないが、徐々に減り、生きがい・社会参加を重視する方向にシフトしていくようだ
- 「地域のお役に立ちたい」「時間に余裕があり、頼まれたから」という回答も増えている。ボランティア活動参加の潜在ニーズであり、事業アピールや巻き込み方次第でご参加いただけるのではないだろうか

4-④ 定年(60歳)退職後（いつ頃まで活動したいか）

④ いつごろまで活動したいと思いますか。（当てはまるもの1つ）

- 1 60歳くらいまで 2 65歳くらいまで
- 3 70歳くらいまで 4 75歳くらいまで
- 5 76歳以上
- 6 年齢にかかわらず、働けるうちはいつまでも

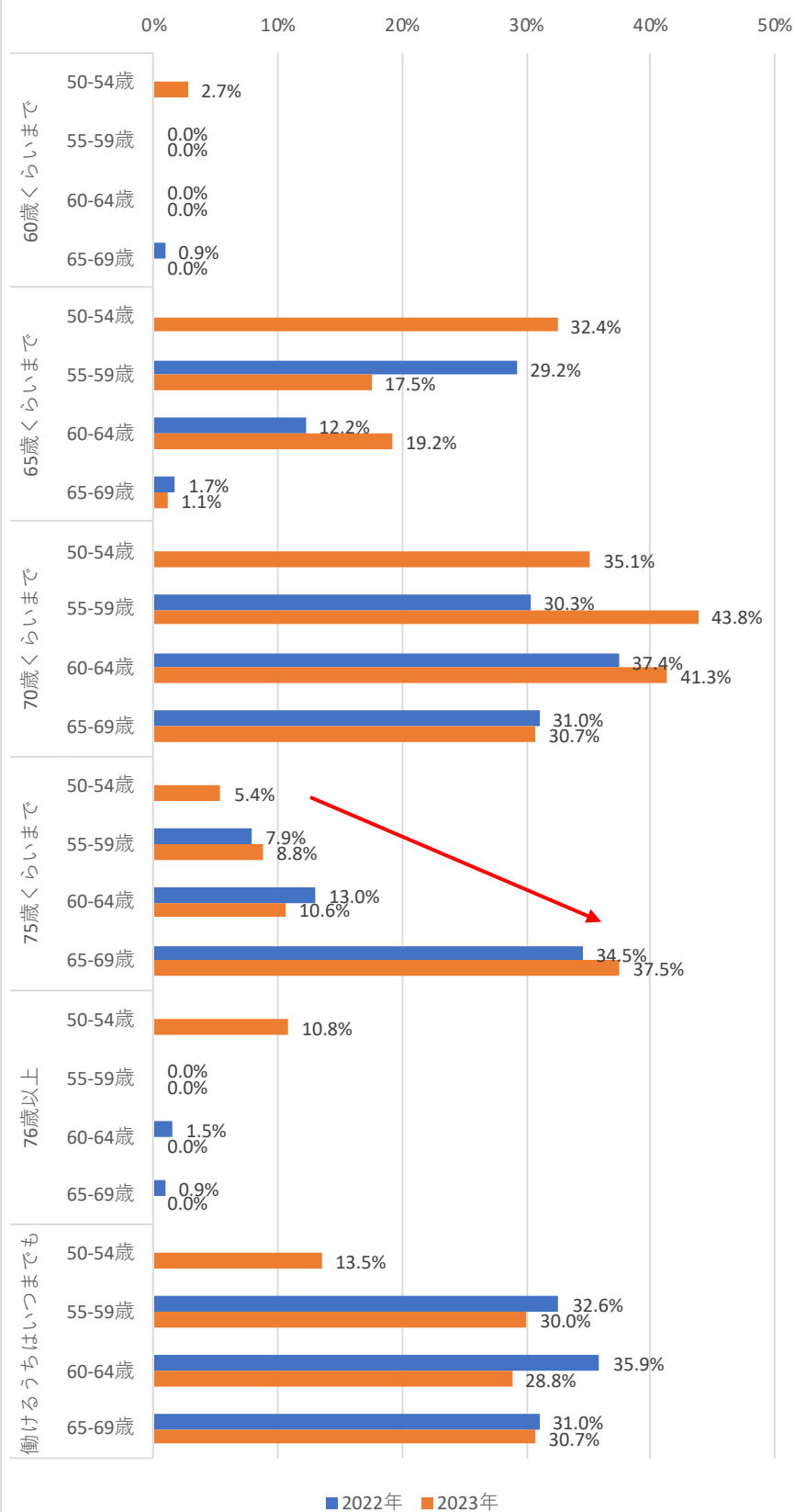
	2019		2022		2023(55-70歳)		2023(50-54歳)	
60歳くらいまで	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	1	2.7%
65歳くらいまで	87	15.8%	43	12.9%	35	12.6%	12	32.4%
70歳くらいまで	189	34.4%	111	33.3%	105	37.9%	13	35.1%
75歳くらいまで	76	13.8%	63	18.9%	52	18.8%	2	5.4%
76歳以上	7	1.3%	3	0.9%	0	0.0%	4	10.8%
働けるうちはいつまでも	190	34.6%	112	33.6%	85	30.7%	5	13.5%
合計	549		333		277		37	



[年代別・2022年・2023年のみ]

		2022年	2023年
60歳くらいまで	50-54歳		2.7%
	55-59歳	0.0%	0.0%
	60-64歳	0.0%	0.0%
	65-69歳	0.9%	0.0%
65歳くらいまで	50-54歳		32.4%
	55-59歳	29.2%	17.5%
	60-64歳	12.2%	19.2%
	65-69歳	1.7%	1.1%
70歳くらいまで	50-54歳		35.1%
	55-59歳	30.3%	43.8%
	60-64歳	37.4%	41.3%
	65-69歳	31.0%	30.7%
75歳くらいまで	50-54歳		5.4%
	55-59歳	7.9%	8.8%
	60-64歳	13.0%	10.6%
	65-69歳	34.5%	37.5%
76歳以上	50-54歳		10.8%
	55-59歳	0.0%	0.0%
	60-64歳	1.5%	0.0%
	65-69歳	0.9%	0.0%
働けるうちはいつまでも	50-54歳		13.5%
	55-59歳	32.6%	30.0%
	60-64歳	35.9%	28.8%
	65-69歳	31.0%	30.7%

問4 ④-2 いつごろまで活動したいか

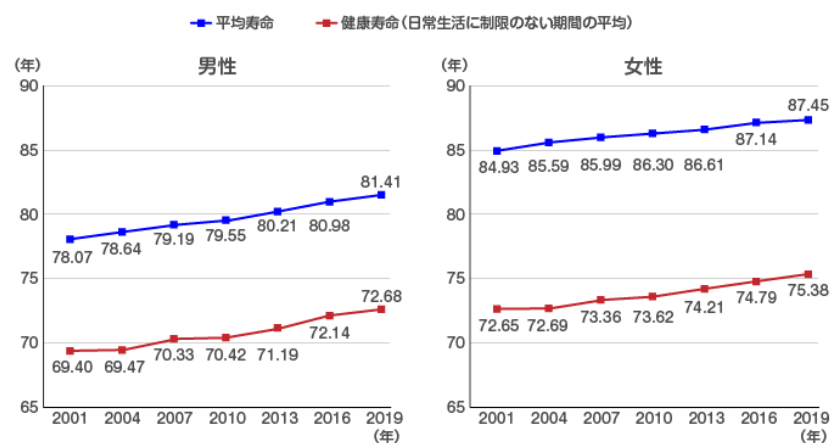
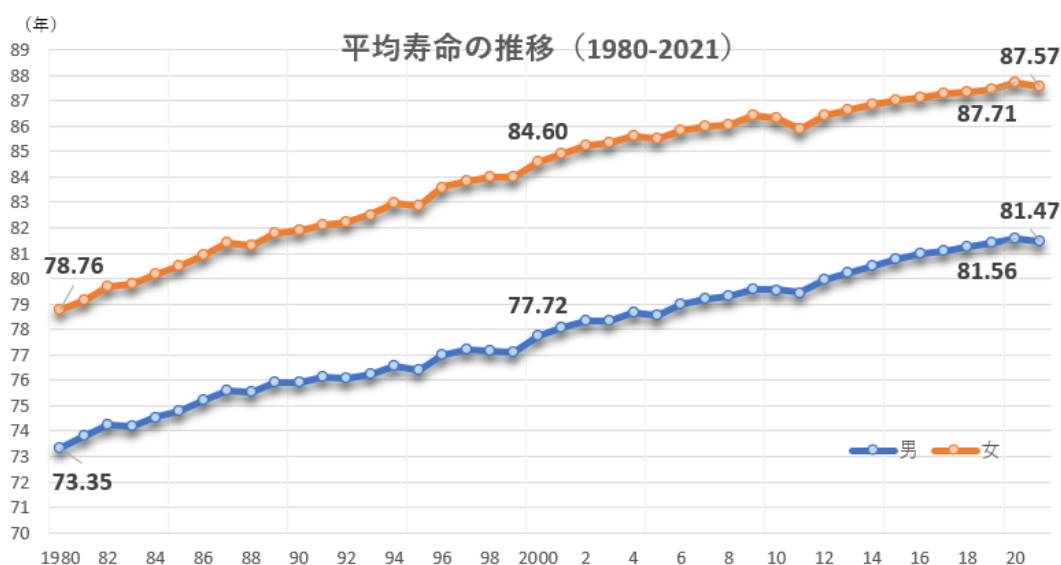


● 50～54歳の方が65～70歳くらいまでという人が多いのに対し、65～69歳の方は70～75歳くらいまで、という人が多い。若い人ほど長く働きたくなさそうに感じる

● 60歳定年が雇用延長という形で実質65歳までとなっているが、「70歳くらいまで活動したい」「75歳くらいまで活動したい」「いつまでも活動したい」を合わせると「活動したい」人の87.4%（55～70歳、2023年）に及ぶ。2020年に高齢者雇用安定法が改正され、「定年を70歳に」という方針は打ち出されているが、高齢者の意識としてはさらに先まで活動したいと感じているようだ。健康行政を進めた成果として健康寿命（日常生活に制限のない期間の平均）が延伸している（*7）ことと無縁ではないだろう。今後も健康寿命を伸ばす・あるいは平均寿命と健康年齢の差を縮めるためには、高齢者にふさわしい就労環境の整備や健康の維持が重要だということを示している

（*7）「令和3年簡易生命表」（厚生労働省 2022）

平均寿命（2021）は男性 81.47 年、女性は 87.57 年、健康寿命（2021）は男性 72.68 歳、女性 75.38 歳。平均寿命（2021）と健康寿命（2019）との差は、男性 8.79 年、女性 12.19 年。



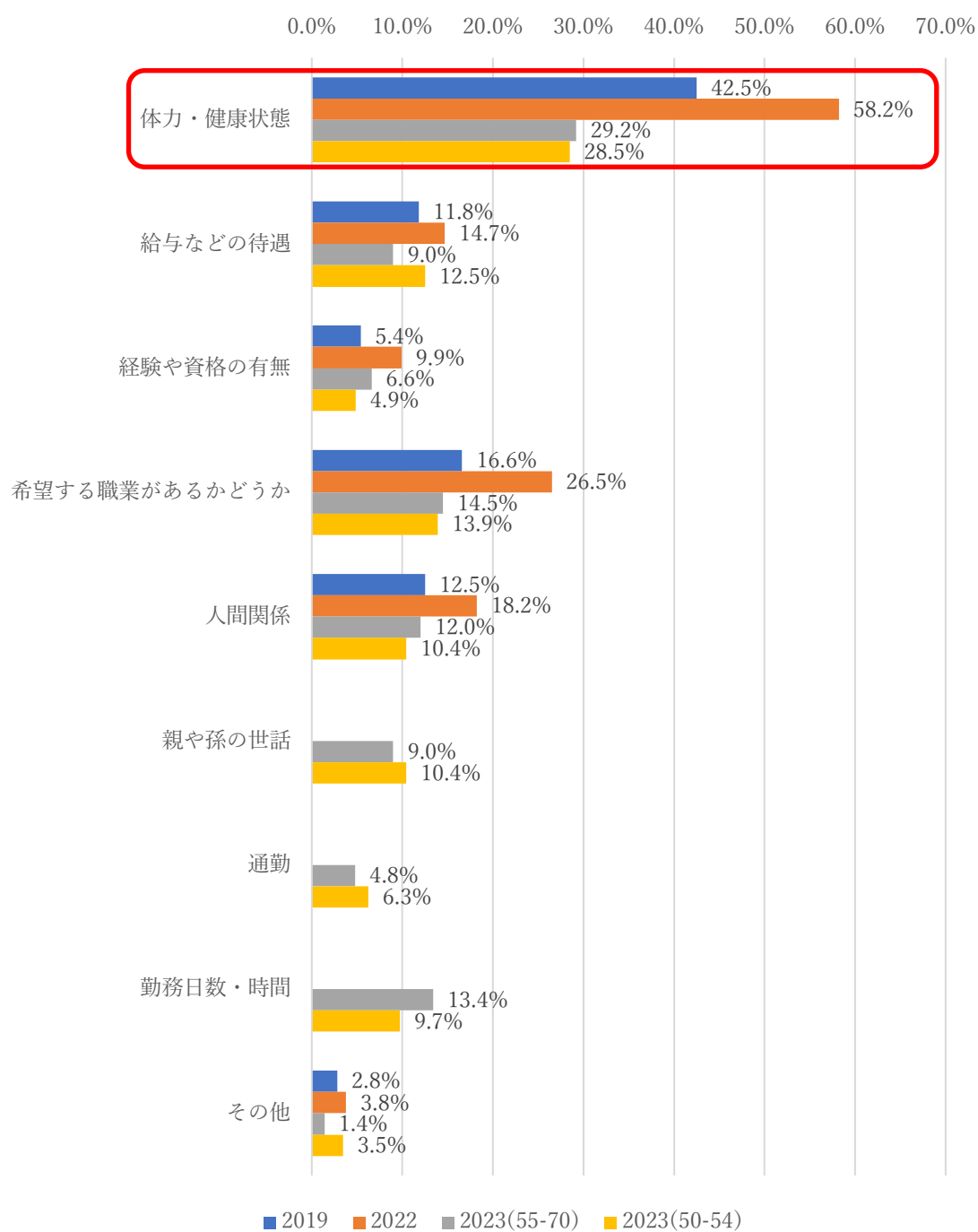
4-⑤ 定年(60歳)退職後（働く上での不安）

⑤ 働く上での不安はありますか。(複数回答可)

- | | |
|------------|------------------|
| 1 体力・健康状態 | 2 給与などの待遇 |
| 3 経験や資格の有無 | 4 希望する職業があるかどうか |
| 5 人間関係 | 6 家族の環境(親や孫のお世話) |
| 7 通勤 | 8 勤務日数・時間 |
| 9 その他() | |

働く上での不安	2019		2022		2023(55-70歳)		2023(50-54歳)	
体力・健康状態	404	42.5%	246	58.2%	187	29.2%	41	28.5%
給与などの待遇	112	11.8%	62	14.7%	58	9.0%	18	12.5%
経験や資格の有無	51	5.4%	42	9.9%	42	6.6%	7	4.9%
希望する職業があるかどうか	158	16.6%	112	26.5%	93	14.5%	20	13.9%
人間関係	119	12.5%	77	18.2%	77	12.0%	15	10.4%
親や孫の世話					58	9.0%	15	10.4%
通勤					31	4.8%	9	6.3%
勤務日数・時間					86	13.4%	14	9.7%
その他	27	2.8%	16	3.8%	9	1.4%	5	3.5%

問4 ⑤-1 働く上での不安



その他 2023

自身難病持ちなので勤務体制に制限あり
特になし 3人

2022

特になし 5人
自由時間との両立、介護をしながらでは難しい、孫の世話がある

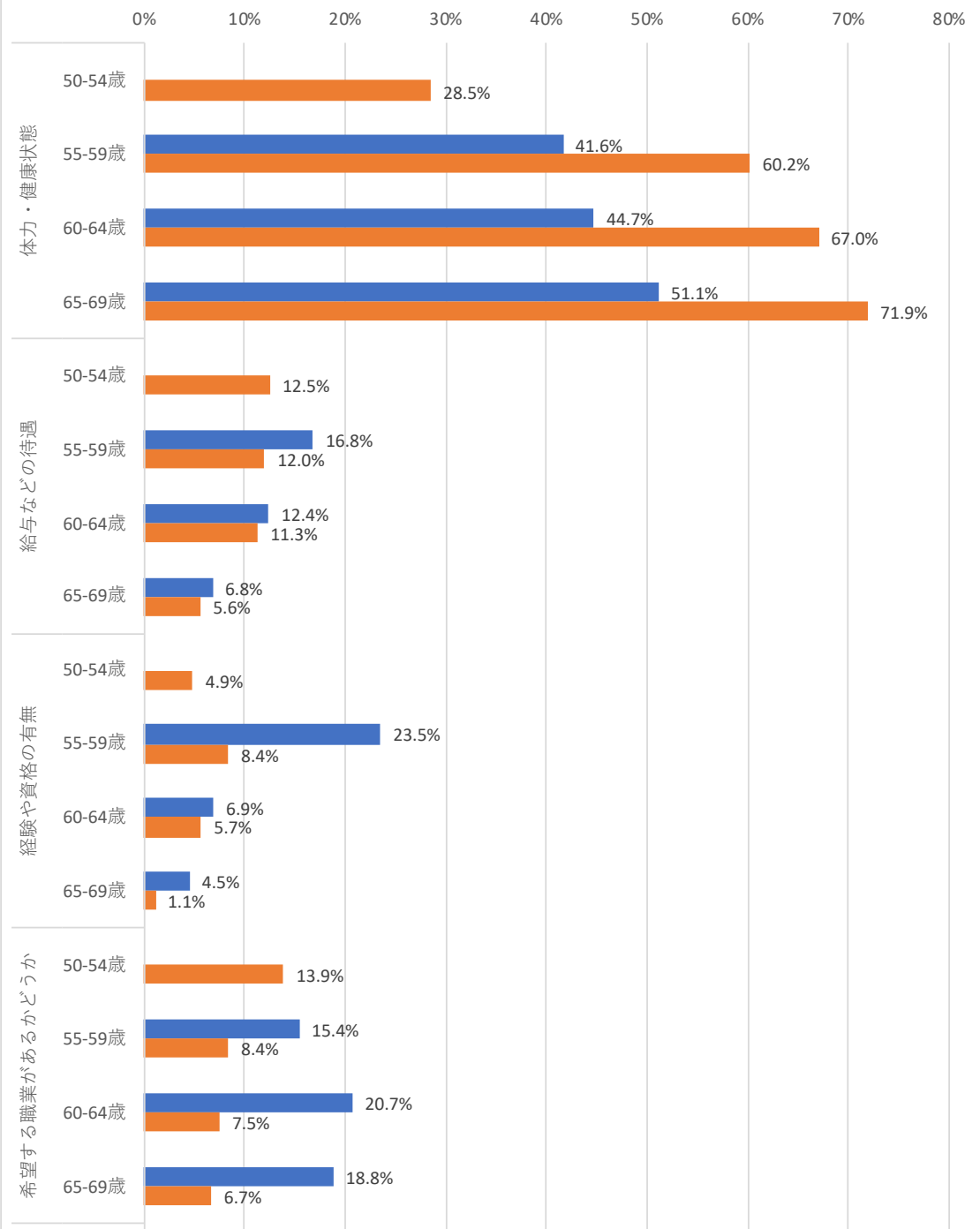
2019

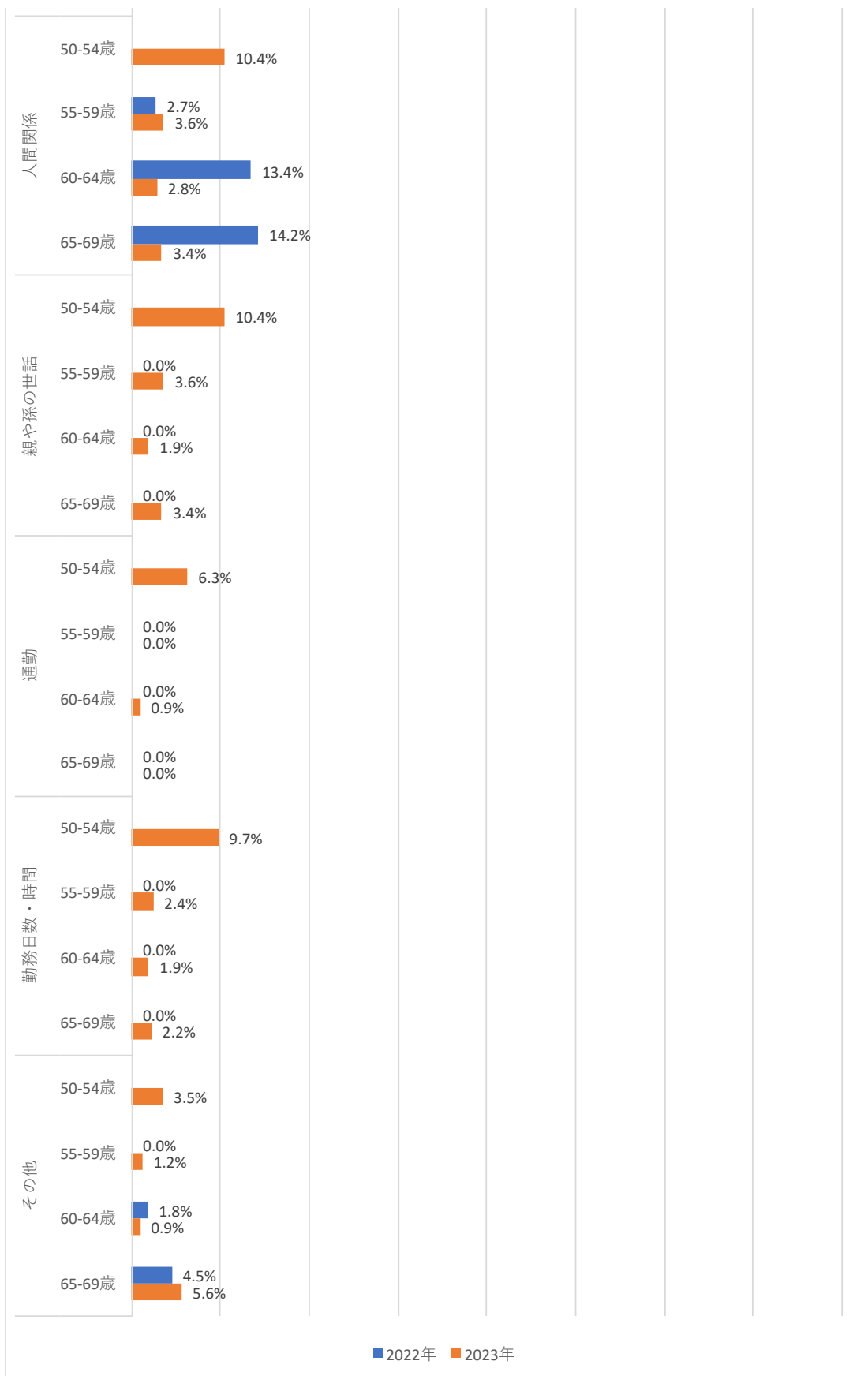
何歳まで働かせてもらえるか
フルタイムではない働き方と収入のバランス
履歴書の書き方
年金と農業だけでは収入が安定しない
通勤や移動手段

[年代別・2022年、2023年のみ]

働く上での不安		2022年	2023年
体力・健康状態	50-54歳		28.5%
	55-59歳	41.6%	60.2%
	60-64歳	44.7%	67.0%
	65-69歳	51.1%	71.9%
給与などの待遇	50-54歳		12.5%
	55-59歳	16.8%	12.0%
	60-64歳	12.4%	11.3%
	65-69歳	6.8%	5.6%
経験や資格の有無	50-54歳		4.9%
	55-59歳	23.5%	8.4%
	60-64歳	6.9%	5.7%
	65-69歳	4.5%	1.1%
希望する職業があるかどうか	50-54歳		13.9%
	55-59歳	15.4%	8.4%
	60-64歳	20.7%	7.5%
	65-69歳	18.8%	6.7%
人間関係	50-54歳		10.4%
	55-59歳	2.7%	3.6%
	60-64歳	13.4%	2.8%
	65-69歳	14.2%	3.4%
親や孫の世話	50-54歳		10.4%
	55-59歳	0.0%	3.6%
	60-64歳	0.0%	1.9%
	65-69歳	0.0%	3.4%
通勤	50-54歳		6.3%
	55-59歳	0.0%	0.0%
	60-64歳	0.0%	0.9%
	65-69歳	0.0%	0.0%
勤務日数・時間	50-54歳		9.7%
	55-59歳	0.0%	2.4%
	60-64歳	0.0%	1.9%
	65-69歳	0.0%	2.2%
その他	50-54歳		3.5%
	55-59歳	0.0%	1.2%
	60-64歳	1.8%	0.9%
	65-69歳	4.5%	5.6%

問4 ⑤-2 働く上での不安





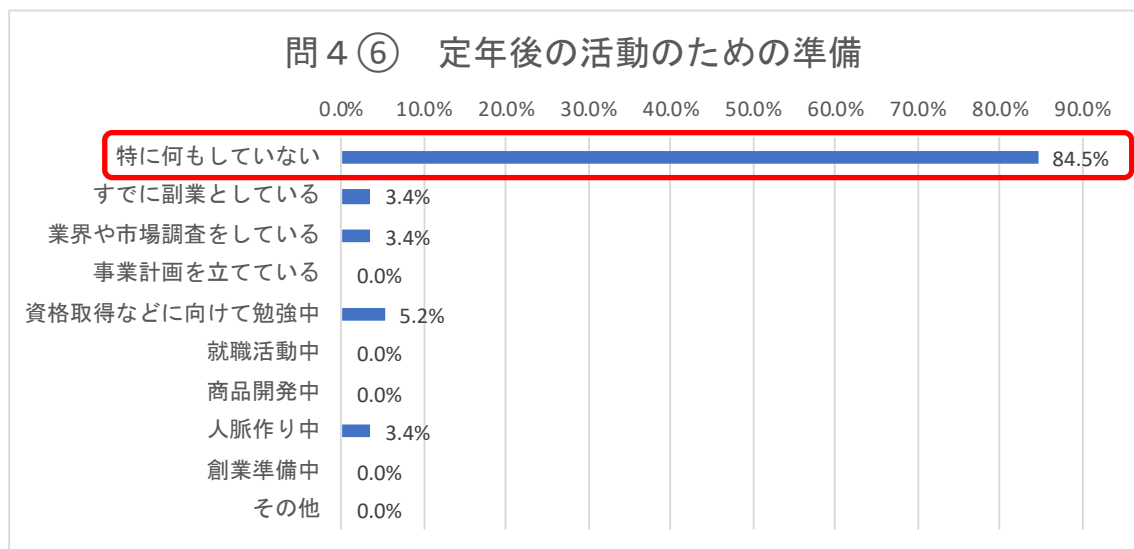
- 2023年は3項目を追加しているが、複数回答なので影響はない
- 体力・健康に対する不安を感じる人は2022年も多かったが、さらに増加している。
健康維持は支援課題ととらえたい

4-⑥ 定年後の活動のための準備(2023 年 50～54 歳のみ)

① 定年後の活動のための準備を何かしていらっしゃいますか。(複数回答可)

- 1 特に何もしていない 2 すでに副業として行なっている
 3 業界や市場の調査をしている 4 事業計画を立てている
 5 資格取得などに向けて勉強中 6 就職活動中
 7 商品開発中 8 人脈作りのために交流会・勉強会などに参加中
 9 創業準備中 10 その他()

特に何もしていない	49	84.5%
すでに副業として行っている	2	3.4%
業界や市場の調査をしている	2	3.4%
事業計画を立てている	0	0.0%
資格取得などに向けて勉強中	3	5.2%
就職活動中	0	0.0%
商品開発中	0	0.0%
人脈作り	2	3.4%
創業準備中	0	0.0%
その他	0	0.0%



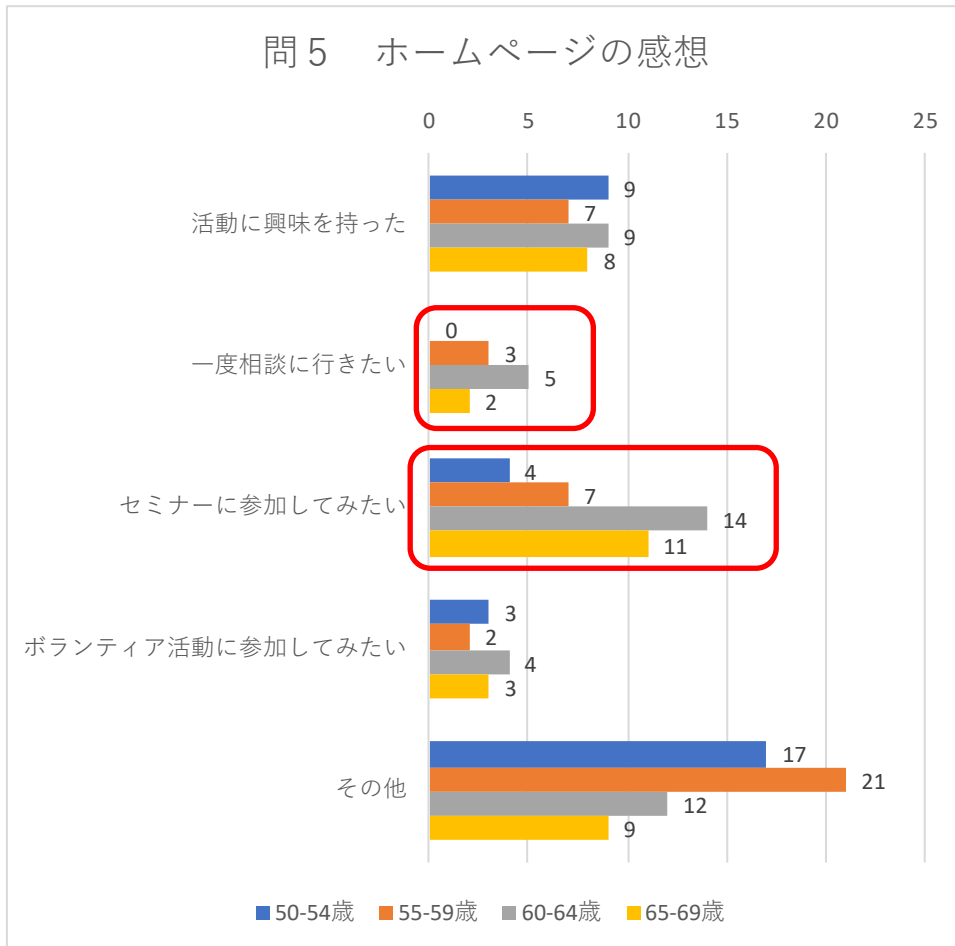
- ライフデザインやセカンドキャリアを考える機会を提供する必要があると感じる
- 副業や起業・創業を目指す人のための事業計画セミナーなども有効だと思われる
- 事業所にも啓発のための協力を求めたい

5 サポートセンターのホームページへの関心

問5 幸田町では就労、起業、社会活動などを希望するシニア・シルバーの方の活動支援を目的としたサポートセンターを設立し、無料での就業・起業・ボランティア支援や健康・趣味・生きがいなどにつながる無料セミナーなどを開催しています。

当センターのホームページをご覧いただき、ご感想をいただけないでしょうか。(任意)

- 1 活動に興味があった ⇒ 特に興味のある内容があれば記入願います。
()
- 2 一度相談に行きたい(ご相談内容を簡単に:)
- 3 セミナーに参加してみたい
- 4 ボランティア活動に参加してみたい
- 5 その他()



●特に興味のある内容

	2022年	2023年
就労支援	16	14
セミナー	9	3
ボランティア情報	6	1
起業支援	4	4
アクセスできない	3	0
農業	0	2
スマートフォン	0	2

●相談内容

求職相談「自分に合った仕事があるか」 6人

起業相談 1人

●その他(人数表記なしは1人)

<50～54 歳>

興味なし 4人

活動の存在を初めて知った 3人

時期が来たら考えたい 2人

活動の目的がわかりにくい

頑張ってください

見る時間がない

特になし

相談できる場所があるのは良い

活動したいと思わない

ハローワークの方が情報が詳しい

<55～70 歳>

時期が来たら相談したい 13人

今はまだ考えるに至らない 5人

興味なし 4人

今の仕事を続けるが、その後は未定 2人

セミナーの内容がわかりにくい

就労支援事例紹介が少ない

災害時の協力体制を知りたい

特殊な知識のある人の職業紹介は無理。

外部の専門会社ともコネクションを持つべきである。

読みやすくて良い

1月末で定年、必要とされる企業があればご紹介いただきたい
情報源として活用中
役場の定年退職者の天下りが目立つ
ハローワークより相談しやすそう
参加したいと思えるセミナーがない
具体的な求人内容がわからない
さらに充実するといい
この活動を初めて知った

- ホームページの情報からはセミナーに関心を持たれたり、相談のニーズもありそう。認知度のさらなる向上が課題だ
- 若年層(50～54 歳)の現役世代に興味を持ってもらう工夫が必要かもしれない
- 関心を持っていた人がいる半面、「時期が来たら・・・」「今はまだ・・・」「興味なし」の人も少なからずいる。ご自身が当事者であるという自覚は薄いのかかもしれない。支援というよりは啓発活動の必要性を感じる

6 サポートセンターが実施している事業や今後計画する事業への関心

問 6 当センターが今後実施予定の事業について、興味・関心あるものにチェックをお願いします(複数回答可)

- 1 高齢者の楽しみづくりと健康増進(お菓子づくり教室など)
- 2 農家の人手不足を緩和する人材マッチング(繁忙期の人材集めなど)
- 3 果物による幸田町の町おこし支援(果物農家支援、特産品開発やPR など)
- 4 不用品処分・終活の支援(生前整理、相続対策など)
- 5 企業への再就職支援(企業とシニア・シルバーの方とのマッチング)
- 6 創業・起業支援
- 7 スマートフォン、タブレット、P C、ネットサービスの活用セミナー
- 8 子ども・子育て世代の支援(ニーズ調査、勉強会、出張セミナーなど)
- 9 ボランティア活動支援(森林保全、介護支援など)
- 10 その他:当センターの事業に対しご要望があれば自由にお書きください

	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳
高齢者の楽しみづくりと健康増進(お菓子づくり教室など)	14	33	43	35
農家の人手不足を緩和する人材マッチング(繁忙期の人材集めなど)	20	16	16	18
果物による幸田町の町おこし支援(果物農家支援、特産品開発やPRなど)	11	2	6	5
不用品処分・終活の支援(生前整理、相続対策など)	22	3	15	12
企業への再就職支援(企業とシニア・シルバーの方とのマッチング)	26	11	8	10
創業・起業支援	4	3	2	0
スマートフォン、タブレット、P C、ネットサービスの活用セミナー	5	2	7	8
子ども・子育て世代の支援(ニーズ調査、勉強会、出張セミナーなど)	12	2	6	1
ボランティア活動支援(森林保全、介護支援など)	15	0	4	1
その他	1	0	2	2

その他

子ども食堂活動

海外に繋がりがあるもの

犬猫の保護活動

高齢者支援ボランティア

内職の斡旋

スピリチュアルボランティア

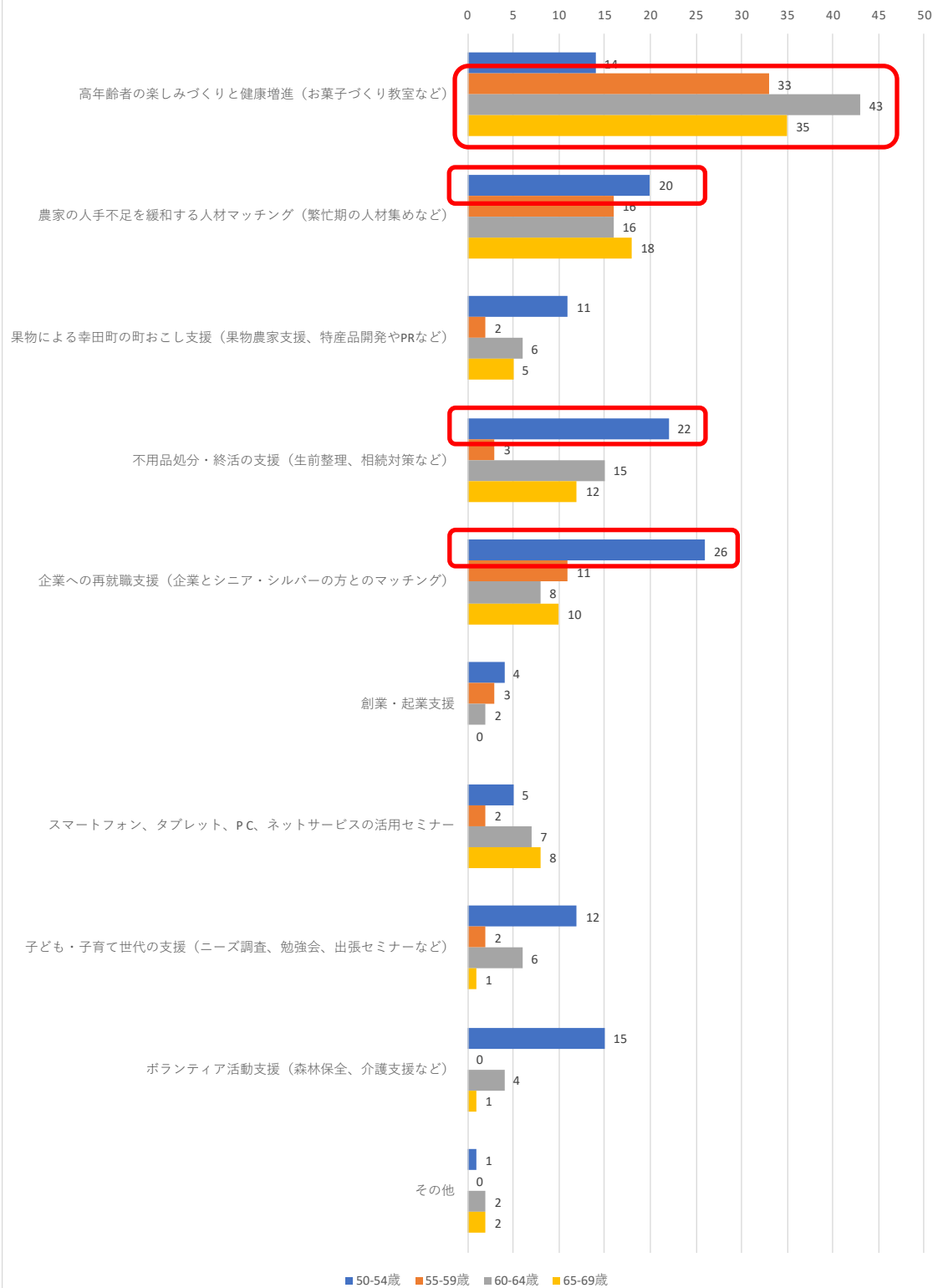
読書会の開催

シニアが集まれるような麻雀クラブ、将棋クラブ、囲碁クラブ、男性が集まれるようなクラブなど

保育士、先生のサポート(部活指導等)もあればよいと思います

琴を教えられる

問6 興味・関心ある今後の事業



- 55～70歳の人には生きがいづくり、50～54歳の人には農業、就業支援、終活への関心が高いことが窺える。この4つの分野を支援課題と捉えたい
- 当センターの事業は、50～54歳の世代の関心が高いようだ。セミナーやイベントを開催する際には、世代のニーズを意識した内容が望まれる

7 自由意見

		件数	
		2022 年	2023 年
1	働き方に関すること	16	20
内訳	農業に関すること	2	2
	待遇に関すること	1	1
	退職に関すること	1	0
	職種に関すること	7	7
	働き方に関すること	5	10
2	シニア・シルバー世代の支援について	14	9
3	まちづくりに関すること	13	14
4	生活に関すること	10	14
5	交通機関に関すること	10	13
6	ボランティア活動に関すること	5	5
7	ホームページに関すること	3	2
8	セミナーに関すること	2	6
9	子育てに関すること	1	6
10	健康に関すること	1	0

●まちづくり、ＪＲの駅や交通手段、セミナーへの要望が多い。この中でセンターとしてできることはセミナーのみだが、町民の声は町役場に要望として届けたい

8 アンケートから想定される課題と対策案

【1】就業希望者多数

〈課題〉

- ・雇用延長、または就業の要望が多い
- ・情報の入手方法がわからない
- ・要望に合う求人がない
- ・経済的に必要
- ・起業の要望もある

〈対策〉

- ・労使双方のマッチングを進めるために、高年齢者・事業所に対して告知・啓発を行うため、商工会やJAと情報交換や連携を密にしたい
- ・起業希望者にはアイデアの具現化(ビジネスモデル化や事業計画)を支援するセミナーなどを開催したい

【2】定年後への準備不足

〈課題〉

- ・定年後の活動意欲は旺盛ながら、そのための準備は行われていない
- ・「定年になってから」「職を失ってから」考える、では遅いのではないか
- ・その結果「どうするか決まっていない」人がかなりの割合でいる
- ・就職するにせよ、起業するにせよ、それなりの準備が必要であるという認識が薄い

〈対策〉

- ・すでに人生100年時代であり、ライフプラン、セカンドキャリア、サードキャリアの教育の必要がある。セミナーを企画・実施する
- ・早期教育のために事業所の告知の協力を依頼する

【3】センター及びセンター機能の認知度アップ

〈課題〉

- ・今回の調査でセンターの活動を知っていただくこともできたが、まだまだ認知度は低いと言わざるを得ない

〈対策〉

- ・相談や求人情報掲載の記名希望者へは直接アプローチを行う
- ・無料で相談、職業紹介やセミナーが受けられること、公的機関なので安心である、ことを町民に知っていただく必要があり、広報誌、回覧、全戸配布を活用したり、セミナー参加者を対象に交流会開催、名刺の工夫などを行う

9 まとめ

退職 → 引きこもり(*8) → 認知症 → フレイル(虚弱、*9) → 要介護

この連鎖に陥らないために

(*8)退職が引きこもりのトリガーになるのであるならば、その前(50代～60代前半)に、「社会とのつながり」づくりの対策が必要になる(p.45 参照)

(*9) フレイルとは、健康な状態と要介護状態の中間の段階を指す(厚生労働省)

●内閣府による 2018 年度の調査では、全国の満 40 歳から満 64 歳までの人口(4,235 万人)の 1.45%に当たる 61.3 万人がひきこもり状態にあると推計された。また、専業主婦や家事手伝いでひきこもり状態の者も存在すること、ひきこもり状態になってから 7 年以上の者が半数近くにも及ぶこと、初めてひきこもりの状態になった年齢が全年齢層に大きな偏りなく分布していること、若い世代と異なり退職したことをきっかけにひきこもり状態になった者が多いことなども明らかになった。(令和元年版「子供・若者白書」、2018)

https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/r01honpen/s0_2.html

●内閣府 2022 年の調査では、広義の引きこもりの割合は、40～64 歳で 2.02%。その年代の人口 4,228 万人にあてはめると、約 85.4 万人と推計された(こども・若者の意識と生活に関する調査 2022)。

<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/r04/pdf-index.html>

つまり、5年間で 40～64 歳の引きこもりは 24.1 万人増えている計算になる。

コロナ禍(引きこもりになった原因の 29.3%)の影響も大きいとはいえ、引きこもりになった原因の第一位は退職(37.3%)である。(こども・若者の意識と生活に関する調査、2022)

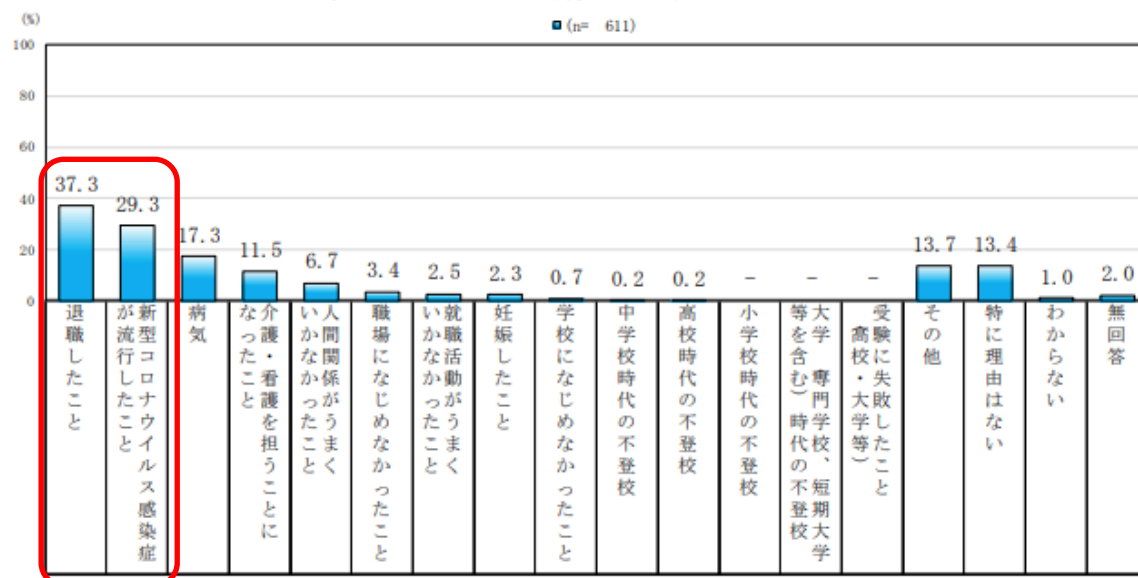
<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/r04/pdf/s2-3.pdf>

<参考>内閣府 こども・若者の意識と生活に関する調査 2022

(4) 現在の外出状況になった理由

問 18-1 あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。(いくつでも)

図表2-3-2-4-1 現在の外出状況になった理由



外出頻度の低い回答者のうち、現在の外出状況となってからの期間が6か月以上である旨の回答をした者(611人)に、今の状況になった理由を聞いたところ(図表2-3-2-4-1)、「退職したこと」が37.3%で第1位にあげられ、以下、「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」(29.3%)、「病気」(17.3%)などの順となっている。

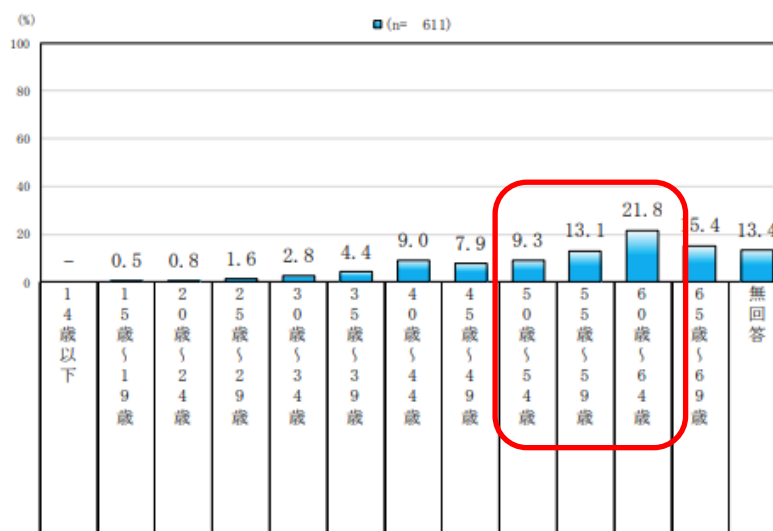
「特に理由はない」という回答者は13.4%である。

項目	調査年齢	該当者数	有効回収数に占める割合	
普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	15歳～39歳対象調査	67人	0.95%	準ひきこもり
	40歳～69歳対象調査 (参考：うち40～64歳)	64人 (30人)	1.23% (0.70%)	
普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	15歳～39歳対象調査	52人	0.74%	広義のひきこもり
	40歳～69歳対象調査 (参考：うち40～64歳)	81人 (50人)	1.55% (1.17%)	
自室からは出るが、家からは出ない	15歳～39歳対象調査	21人	0.30%	
	40歳～69歳対象調査 (参考：うち40～64歳)	4人 (3人)	0.08% (0.07%)	
自室からほとんど出ない	15歳～39歳対象調査	4人	0.06%	狭義のひきこもり
	40歳～69歳対象調査 (参考：うち40～64歳)	6人 (3人)	0.12% (0.07%)	

(3) 現在の外出状況になった年齢 (問 17)

問 17 あなたの外出状況が現在の状態になったのは、何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

図表2-3-2-3-1 現在の外出状況になった年齢



外出頻度の低い回答者のうち、現在の外出状況となってからの期間が6か月以上である旨の回答をした者(611人)(問16参照。以下、本章において同じ。)に、今の状況になった年齢を聞いたところ(図表2-3-2-3-1)、「60歳～64歳」(21.8%)、「65歳～69歳」(15.4%)、「55歳～59歳」(13.1%)、「50歳～54歳」(9.3%)の順となっている。

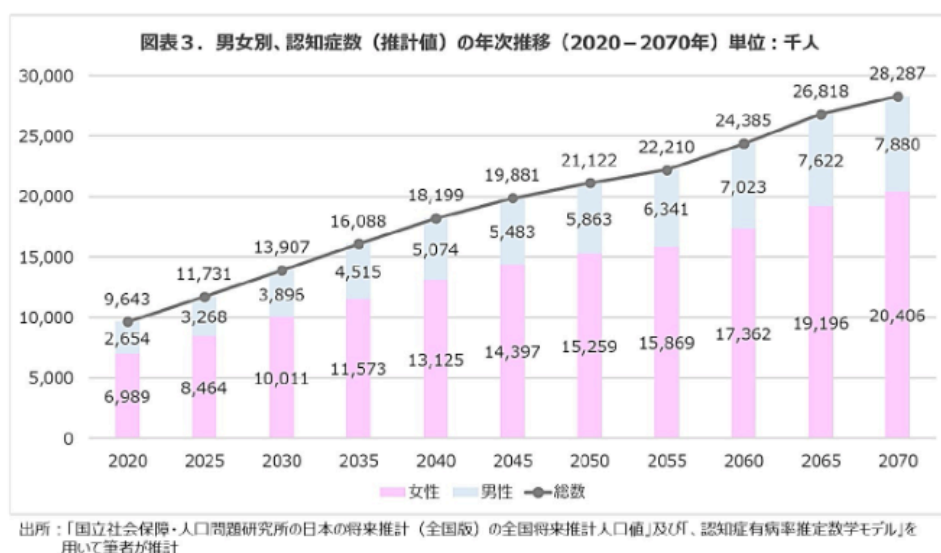
●令和 5 年全国将来推計人口値を用いた全国認知症推計(全国版)－65 歳以上の高齢者層がピークとなる 2040 年には 46.3%が認知症の可能性、共生社会の実現を－(ニッセイ基礎研究所、2023)

認知症総数 964.3 万人(2020)→1,172.1 万人(2025)の推計

<https://www.nli-research.co.jp/report/detail/id=75566?pno=2&site=nli>

3－2 | 全国認知症推計(男女別：2020年-2070年)

また、この推計値を男女別(図表 3)にみると、2020年時点における認知症数は、男性265万人、女性698万人から、男女ともに増加の一途を辿り、2070年には、男性788万人、女性2,040万人にまで増加する見通しが明らかとなった。2020年からの50年間で、男性523万人増、女性は1342万人増で、男女とも約3倍に増加する見通しが明らかとなった。2020年における男女別の認知症有病率は、85歳を超えると、男性は51%、女性は63%、2070年になると、85歳以上で男性70%、女性87%と推計された。



●高齢期の社会的孤立と閉じこもり傾向による死亡リスクは約 2 倍
(地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター、2018)

<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/r04/pdf-index.html>

退職 → 引きこもり → 認知症 → フレイル → 要介護

この連鎖は、健康寿命の低下、健康寿命と平均寿命の差の拡大につながる。

フレイルに陥らないためには

身体的側面
精神的側面
社会的側面

からのサポートが必要とされている。

このうち高齢者に軽視されてきた「社会的側面」に相当するのが「働く＝社会に必要とされる」ということであり、生涯現役を目指す当協議会の目的と社会的ニーズは一致する。60代が定年とともに社会とのつながりを途切れさせないことが重要なポイントになりそうだ。

現在当協議会では、厚生労働省の生涯現役地域づくり環境整備事業の一環として、さまざまな事業を通じて調査や社会実験を行なっているところであるが、町民・町内企業のお役に立ち、なおかつ他の自治体の見本となるような事業モデルを喫緊の課題として実現したいと思う



<ウェルビーイング事業モデル スキーム>

